

明治大学公共経営学特別講義

20代でNPOをはじめた  
リーダーに聞く（3）

担当：田村太郎

<http://blog.canpan.info/tamurataro/>

## 今日お話しすること

1. 「多文化共生センター」の概要
2. NPOと社会的事業の運営
3. 今後の活動
  - 多文化共生分野において
  - 社会起業家の創出において
4. ミニレポートへの期待  
日本で外国人との共生は可能だと思いますか？

## 1. 多文化共生センターの概要

- 95年1月の阪神大震災で被災した外国人への情報提供を機にスタート
- 00年までに全国5カ所で外国人住民との共生に関する活動を展開
- 06年3月に全国組織から5つの地域組織へ

多文化共生センターのウェブサイト  
<http://www.tabunka.jp/>

## 2. NPOと社会的事業の運営

- ニーズへの対応（社会起業家はニーズを追いかけるのではなく、予測しよう）
  - 相談活動をとおして得た情報を分析し、「攻め」の活動へ

例) 医療保健、子ども

= 外国人住民からの相談を元に事業化  
研修、調査・研究

= 自治体等からの依頼を元に事業化

## 2. NPOと社会的事業の運営

- キャパシティビルディング（対応能力）への配慮
  - 地域の問題は地域で解決。  
共同化できる部分は共同。
  - 「共生」を視野に入れ、ボランティアの積極的な参加を促進
- しくみづくりこそ、目指すべきゴール
  - 本質的な問題解決には、制度づくりや行政・企業との協働が不可欠

## 3. 今後の活動

- 多文化共生分野において
  - 06年3月「多文化共生推進プログラム」（総務省）、同年6月「グローバル戦略」（経済財政諮問会議）等を受け、自治体が施策推進に本腰をいれることを支援
  - マネジメント層の研修、現場のコーディネーターの育成
  - 自治体施策のプランニング支援、調査・研究による提言活動

### 3. 今後の活動

→ 08年「ISO26000シリーズ  
発効」を見据えた企業への変革促進

\* 偽装請負、研修・技能実習生制度  
の悪用、児童労働に依存した構造  
を変革したい！

### 3. 今後の活動

- 社会起業家の創出において
  - 社会企業会のためのビジネスプランコンペ「edge」、起業後のコミュニティづくり
  - 大学での授業をとおした起業支援とネットを使ったプロセスの共有

## 4. ミニレポートへの期待

- ①日本でNPOは社会変革をすることが可能だと思いますか？
  
- ②可能と思う場合、その理由や、可能にしていくための方策について、不可能と思う場合、その理由や、社会の課題を解決する方策を、

それぞれ書いてください。